

原発性胆汁性胆管炎について

今回は原発性胆汁性胆管炎についてお話ししたいと思います。肝臓の病気は大体が男性に多いのですが、この原発性胆汁性胆管炎と自己免疫性肝炎は中年以降の女性に多いことが特徴です。

以前は原発性胆汁性肝硬変と

この病気は以前、原発性胆汁性肝硬変と呼ばれていました。しかし、診断・治療技術の進歩した現在では、ほとんどの患者が肝硬変の状態でないことから2016年に原発性胆汁性胆管炎と病名変更がされました。

無症候性と症候性

この病気は、ほとんど症状のない初期の状態の無症候性と色々な症状が出現した症候性に分けられます。患者の約7割が無症候性とされており、予後が良好です。症候性は、指定難病に分類されており、認定されれば医療費の補助が受けられます。

患者数は？

本邦の2018年に行った調査によると原発性胆汁性胆管炎と診断された患者さんは全国におよそ3万7千人と推定されています。

病気の原因は？

原因はまだわかっていませんが、自己免疫反応が関与することが明らかになりつつあります。

症状は？

自覚症状としては、皮膚掻痒感(かゆみ)で初発することが多いです。病気が進行してくると眼球結膜(白目)や皮膚が黄染する黄疸が出現します。この黄疸の進行がこの病気の予後を決定するとされています。

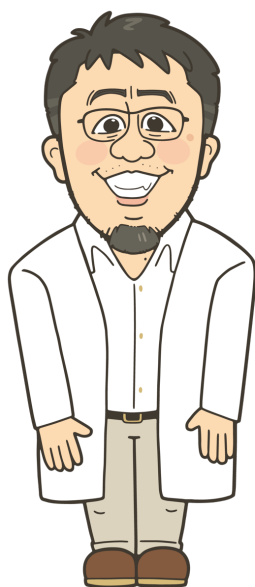
肝硬変に進行すると食道静脈瘤に対する注意が必要です。さらに病気が進行すると腹水、意識障害(肝性脳症)、肝がんの合併にも注意します。

診断は？

- ① 肝生検で慢性非化膿性破壊性胆管炎の所見を認める
- ② 抗ミトコンドリア抗体陽性
- ③ 肝機能障害 特に胆道系酵素(アルカリフォスファターゼ、ALP、 γ -GTP)の上昇より診断します。

治療は？

第一選択薬は、ウルソデオキシコール酸です。また、高脂血症薬の1つであるベザフィブラートにも改善効果が認められています。かゆみに対しては、ナルフラフィン塩酸塩の服用で一定の効果が認められています。進行した症例では肝移植が検討されることもあります。



文責 後藤 隆